

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0272701236		
法人名	医療法人 恵仁会		
事業所名	慈花苑・けやき荘		
所在地	青森県三戸郡田子町大字田子字風張 20-21		
自己評価作成日	平成28年12月14日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 青森県社会福祉協議会		
所在地	青森県青森市中央3丁目20番30号		
訪問調査日	平成29年1月20日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

誤嚥性肺炎の防止、口腔機能低下防止を目的として、平成22年11月より、歯科医師による居宅療養管理指導を受けています。  
 コミュニケーション能力向上の研修会を行い、認知症高齢者への支援をより深めて、傾聴から寄り添いの技術を身に付けていこうと取り組みをしています。  
 介護福祉士国家試験の資格者スタッフも50%を超え、更に今年度も受験して合格を目指しています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

ホームは町の中心地にあり、近隣に役場・ショッピングモール・中学校等がありながらも、閑静な落ち着いた立地である。ホーム内は、十分な広さのある玄関からホールに入り、両側へ居室が配置され、人の存在を一望できる快適さと安心感ある構造となっている。また、天窓からの採光で、自然の明るさと温もりを感じさせてくれる。  
 毎食、昼・夕に取り組んでいる口腔体操は、機能維持と利用者の笑顔を作っている。また、職員は明朗快活で、毎月自主的に全員参加で職員会議を開き、カンファレンス・研修報告・勉強会を行い、熱心に資質向上に努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

## 自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所の基本理念はホールと事務室、玄関入り口正面に掲示し、基本理念に基づいて判断するように、職員一同心がけている。	利用者本位と地域共生を内容とするホーム独自の理念を掲げている。全職員が理念を共有するよう、目に付く所へ掲示し、日々見つけ、ケアへ反映させている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域で行われる行事にはできる限り参加している。当事業所でも自治会の協力を得ながら、地域交流会を行っている。また、町内会の回覧担当を受けている他、毎日、共用型デイサービスの実施をしている。	地域の一員として町内会に加入し、会合や地域清掃等にも参加している。また、地域の理解と協力を大切に考え、幼・保育園児を受け入れたり、夕涼み会に地域住民を招く等して、交流を深めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症についての勉強会を事業所で実施している。研修会や講演会のチラシ、ポスターを玄関に添付し、広報活動の一つとして行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実践、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議では、現在の利用者の状況等を報告している。また、メンバーからの情報を得て、運営に活かせるように努力している。	運営推進会議は2ヶ月に1回、協力体制構築のため、自治会長や他のグループホーム等、全多種多様なメンバーで開催している。メンバーの出席率は高く、施設状況等の報告や情報交換を行い、出された意見をサービスの質の確保・向上に向けて反映させている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議には町の職員も参加している他、入所判定会等にも参加していただいている。必要に応じて、アドバイスをいただいている。	事業所と役場は、会議等においても相互にメンバーとして協力し合う関係であり、日頃から情報交換を行い、ホーム運営についても連携し合える関係を構築している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束について、内部研修会や日常の介護で気がついた事はその都度職員に話し、身体拘束をしないケアをしている。	外部研修へ参加したり、所内の勉強会にて意見交換を繰り返し、職員間で身体拘束の解釈を見つめ直し、ケアへ役立てている。また、万が一、徘徊等の無断外出・捜索時は、近隣の協力が得られる体制にある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	利用者のあざ等を発見した場合、事実確認をしている。虐待防止について全職員に周知している。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を現在利用している利用者はいないが、概要について職員には内部研修等で知識を得るようにしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には十分な説明をし、理解した上で契約を締結している。また、締結後でも、疑問点については再度、説明をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族が面会に来た時を利用し、要望や意見があれば聞いている。運営推進会議でも報告し、反映できることは行っている。	言葉を発しない利用者は目配り等から意見を把握し、ケアへ反映させている。また、家族には、利用料支払い等の来訪時に会話を持つ等、意見や要望の把握している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月の職員会議で出た提案は、できる限り反映している。	毎月の職員会議は全職員の自主的参加により開催し、多くの意見交換が行われており、ホーム運営やケアの改善につなげている。また、日々の連絡ノートに記載される気づきや提案も、ケアへ反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職場の環境づくりや介護に必要な物品の購入等、職員が働きやすいように努めている。勤務表作成には、職員の公休希望をできるだけ受け入れるよう努力している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部研修や講演会へできる限り参加させている。研修に参加した職員は、職員会議で報告をしている。詳細については報告書を提出し、全職員に呈覧している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	外部研修等への参加を通じて、同業者と交流ができる機会を設けている。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前の面談時、利用者の話を聞きながら、不安な事があれば解消し、安心して入所できるように努めている。また、事業所の見学ができるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族にも入所前に面談して、要望や意見があれば、できる限り沿える体制を取るよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	家族のニーズと本人のニーズが必ずしも一緒ではないので、本人のニーズを考え、本人や家族も納得していただけるように努めている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	信頼関係をできるだけ早く築けるように、入所者紹介をして、話しやすくなるよう環境づくりに努力しており、慣れ慣れしなくなったりしないように努めている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の絆は深く、職員では埋めることのできない事がたくさんあるので、情報を提供し、家族からの意見を参考にしたり、時には家族が直接話したりしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの関係が途切れないように、利用者の要望があれば、その場所へ行ってみることもある。	馴染みの人や場所との関わりにおける安心感は大切と捉え、利用者の希望を尊重し、対応している。馴染みの美容院への希望があり、継続して支援している他、年賀状や電話のお手伝いも行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事の席やソファでの座る場所を考え、利用者同士が関わりを持ちやすいように誘導している。軽体操や口腔体操、また、軽作業を共同で行い、共感を持てるよう支援している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	入院等により、契約が終了しても、次の受け入れ先や家族からの要望にも、可能な限り応じるように努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	初回のアセスメントで、本人の意向及び家族からの情報を得ながら、暮らし方の希望を聞き、できる限り沿えるようにしている。	利用者の意向等の把握のために、全職員が利用者の目線や表情変化等のシグナルを察知するよう努めている。また、利用者本位を実現するために、全職員共通の対応をとるよう努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	在宅での情報はケアマネや家族から得ている。入所後も本人との会話等からの情報を基に、生活の中に取り入れるように努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	個々の生活のリズムを大切にしている。その日の気分・体調等を考慮し、できる事は本人にさせていただいている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月、全職員でのケア会議を開催して、面会時等での家族からの意見や日々の介護情報を総合し、介護計画を作成している。	日々の連絡ノート等から利用者の状況を把握し、毎月のカンファレンスで全職員の意見を確認している。また、家族の意向も利用料支払い時における面会で把握し、介護計画に反映させている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいてケアを行っているか、毎日の記録に記載している。変化のある時は、職員間で情報を共有している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人の急な体調不良や外出、家族の都合等、その時々状態に応じたサービスを行い、柔軟に対応するように努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	自治会長や民生委員の方から協力をいただき、また、近隣の方々からも協力をいただきながら、安全に生活ができるように支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望のかかりつけ医に受診できるように支援している。必要に応じて、往診をお願いしたり、歯科医等も受診している。	利用者や家族の希望による受診支援を行っている。町内の内科医、診療所、総合病院、歯科医等が協力医となっており、往診を含め、円滑な連携、受診支援が可能な体制を整えている。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	事業所の看護師に相談し、アドバイスをいただいている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時はまめに面会をして、医師や看護師から情報を得るようにしている。また、医療協力体制についても契約をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入所時に、重度化した場合や終末期の対応について十分に説明をし、確認書をいただいている。	重度化・終末期の対応としては、協力医と利用者で居宅療養管理指導契約を締結した場合に対応している。その他は、入所時点でホームの可能な範囲を説明し、理解していただいた上で対応をしている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	全職員が救命救急の講習を受けている他、急変時の対応についても事務所に掲示している。実践の訓練については、市のグループホーム協議会で、救急法について市の消防署で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年3回、避難訓練(夜間・日中想定)を行っている。近隣の方々にも、自治会の総会等で協力をお願いしている。	年間の訓練では、避難・消火・通報の訓練を行っている。非常食の備蓄は3日分とし、防寒・衣類・オムツ等も用意している。また、緊急時は連絡網により、全職員に伝達され、駆けつける体制となっている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけは利用者の羞恥心等を考え、さりげなく行っている。居室には暖簾を活用し、プライバシーを確保している。職員は守秘義務や個人情報について理解している。	利用者を敬い、「さん」付けを基本として呼びかけてる他、言動は否定することなく尊重し、納得されるまで寄り添い、利用者本位の支援に努めている。また、失禁時等は羞恥心に配慮し、さりげなく声かけてそれぞれの居室に戻り、オムツ交換を行っている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者の能力に応じて、日常生活の中や外食時等には、自己決定できるような場面づくりを心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者のその日の体調やペースに合わせ、過ごせるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入浴後の衣類は、できる限り利用者を選ぶようにしている。また、同じ物ばかり着ないように促している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の嗜好は把握している。食事の準備や後片づけ等、できる方とは一緒に行っている。	食事を楽しんでいただけるよう、苦手な物は代替食としている。職員と一緒に食事を摂り、会話を楽しんでいただけるよう心がけている。また、下膳や食器拭き等、可能な利用者にはお手伝いをしていただき、役割と喜びを感じてもらえるよう配慮している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食、残量を記録している。残量の多い時は、体調の変化がないか確認している。水分は十分に摂れるように提供している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	歯科医による居宅療養管理指導を月2回行って、口腔状態を診ていただいている。食後は必ず義歯の洗浄を声かけし、できない部分は介助している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	時間を見て、できる限りトイレで排泄するように声かけをしている。	排泄パターンを把握し、声かけして事前誘導しているが、利用者自身のタイミングを大切と捉え、尊重している。また、失敗があった場合は他者にわからないよう、居室で交換している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給をまめに行ったり、繊維質の多い物を提供している。また、適度な運動をする等、個々に合わせた対応をしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた支援をしている	毎日入浴できる環境にあり、体調や本人の希望に合せ、入浴している。また、洗身は個々の能力に合わせ、支援している。	利用者一人ひとりの希望を浴場に掲示し、全職員で共有するよう努めている。日により、男性職員を嫌がる時や入浴拒否等、利用者本位に努め、柔軟に対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	利用者のペースに合わせ、休息を取っている。夜間、十分に睡眠がとれるように、日中の離床を促している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	飲み忘れや誤薬がないよう、確認している。処方が変わった場合は、全職員がわかるように記載している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者個々の力を活かした役割を与えている。外苑の散歩、ドライブ等で気分転換を図っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	日常的ではないが、外出したい利用者がいれば、支援している。季節を感じるため、全員参加のドライブを年2回行っている。	春は花見に行ったり、ドライブに出かける等の外出支援を行っている。また、受診後の外食の希望等、個々に応じた外出の機会として支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	利用者個々の能力に合わせた、金銭管理をしている。家族と相談の上、金額を決めている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	利用者に電話が来た場合は子機を使い、プライバシーに配慮している。また、電話をかけたい時は、間違い電話で相手に迷惑がからないように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	落ち着いて過ごせるように、照明や室温、湿度等に気を付けている。観葉植物や観賞用金魚をホール内に設置して、心穏やかに、安らぎを感じるよう工夫している。	ホールの両側が居室となり、施設内と人の動きを一望できる造りとなっている他、天窓からの日差しと床暖房で、室温は快適である。ホームは立地が閑静な場所でもあり、不快な物音もなく、浴室やトイレ、洗面所等も利用者にとって理解しやすい構造となっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファを何ヶ所か設置し、食卓テーブルにも個別に利用でき、気の合った利用者同士が雑談できる場所を確保している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所時には、布団・家具・小物等、本人の使っていた物を持ってきていただくようにしている。	湯呑・衣類・布団・タンス等、使い慣れた物を持参していただいている。居室づくりは利用者や家族と相談してレイアウトし、ベットも状況変化に応じて配置換えを行っている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール、トイレ等には手すりがあり、玄関にはスロープがある。手すりを使っての歩行訓練やトイレでの立ち上り等が安全にできるように工夫している。		